

没後30年記念

チャップリンの日本

チャップリン秘書・高野虎市遺品展

2007年10月30日(火)ー12月27日(木)

*月曜日および2007年11月26日(月)ー12月3日(月)は休室です。

東京国立近代美術館フィルムセンター展示室(7階)

開室時間：午前11時ー午後6時30分(入場は午後6時まで)

料金：一般200円(100円)/大学生・シニア70円(40円)/高校生40円(20円)/
中学生以下・障害者(付添者は原則1名まで)は無料

*料金は常設の「展覧会 映画遺産」の入場料を含みます。

*()内は20名以上の団体料金です。小・中学生は無料です。

*学生、シニア(65歳以上)、障害者の方はそれぞれ入室の際、証明できるものをご提示ください。

*フィルムセンターの企画上映をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。

*11月3日(文化の日)は料金が無料となります。

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター

企画協力：日本チャップリン協会、大野裕之

東京国立近代美術館ホームページ：<http://www.momat.go.jp/>

 東京国立近代美術館フィルムセンター
National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo



Chaplin Meets Japan

From the Collection of Toraiichi Kono,
Charles Chaplin's Secretary



チャップリンと高野虎市

Chaplin Meets Japan

From the Collection of Toraiichi Kono,
Charles Chaplin's Secretary



高野虎市

この2007年は、喜劇王チャールズ・チャップリン(1889-1977)が逝去して30年の節目となります。チャップリンの作品とキャラクターは今もなお各国の映画ファンに愛されていますが、その秘書が日本人であったことはそれほど知られてはいません。1916年から1934年まで、18年間にわたりチャップリンの秘書を務めたこのとらいち高野虎市(1885-1971)は、チャップリンの全幅の信頼のもと、喜劇スターから世界の映画芸術のリーダーへと羽ばたいてゆくチャップリンを献身的に支えた人物でした。

昨年の春、京都において、近年発掘された高野の遺品を初めて公開する展覧会「チャップリンの日本」が催されましたが、この度フィルムセンターは東京でこの展覧会を開催する運びとなりました。これらの遺品にフィルムセンター所蔵のチャップリン関連資料を加えて、喜劇王と日本の交流や、日本におけるチャップリン映画の受容の歴史を振り返ります。



チャップリンと初世中村吉右衛門



来日のチャップリンと高野に鉄道省が用意した一等車フリーパス

期間中、東嶋トミエ氏(高野虎市夫人)をお招きしてトーク・イベントを開催いたします。
* 詳細は後日ホームページ等でお知らせいたします。



「チャップリンよなぜ泣くか」(1932年)に主演した“和製チャップリン”小倉繁

NFC
東京国立近代美術館フィルムセンター
National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo



〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6
お問い合わせ：ハローダイヤル 03-5777-8600
東京国立近代美術館ホームページ <http://www.momat.go.jp/>

▼ 交通
東京メトロ銀座線橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

